

2015 早春台湾サイクリングレポート



走行ルート



今回の訪問エリアは、台湾東海岸。新幹線や高速道路が整備された西海岸側とは異なりのどかな景色を出会えるはずである。

スタートはいきなり蘇花公路の断崖ルートからスタートし、花蓮へ。花蓮から成功を経て台東まで行き、輪行で引き返して宜蘭から福隆、十分を経て台北に戻るという計画を立てた。

行程

飛行機

鉄道・バス移動

自転車走行

期日	時間	行程	記事
2015年 3/20(金)	7:20～10:15 11:15～11:35 13:10～14:28 14:32～15:22 15:50～18:30	東京(羽田)～台北(松山) CI223 MRT 松山空港～台北駅 台北～宜蘭 普悠 228次 宜蘭～和平 区間快 4032次 和平～花蓮 46km	天候 曇り 花蓮 しんいせいち民宿 03-8358767
3/21(土)	7:00～16:45 17:07～19:10	花蓮～長浜 87km 長浜～台東 路線バス	天候 晴れのち曇り 台東 ツーリストホテル 886-89-854863
3/22(日)	9:00～10:30 11:20～12:45 13:00～13:37 14:00～18:00	台東市街～台東駅 7km 台東～宜蘭 普悠 417次 宜蘭～南澳 自強 175次 南澳～宜蘭 50.4km	天候 曇り 宜蘭 グランドボスホテル 886-3-9312999
3/23(月)	9:00～13:30 14:17～15:49	宜蘭～福隆 49km 福隆～台北 区間車 4117次 MRT 台北～民権西路	天候 雨 台北 ホテルサンルート台北 88-62-2597 3610
3/24(火)	7:30～15:00 18:15～21:55	台北市内 宿～故宮博物館～宿付近(昼食) ～総統府～SENSE30～松山空港 台北(松山)～東京(羽田) CI222	天候 曇り 台北市内 自転車

今回は4泊の旅。途中二泊目のみ宿泊地未定とした他は、事前に宿の予約を行った。訪問して感じたのはしゃれた民宿が多いことである。言葉の壁を解決できればもっと宿泊地の選択枝が増えるのであるが・・・

鉄道の予約は初日、台北到着直後の台北～宜蘭のみ日本で予約しておいた。他は、その都度購入した。

計画では二日目、四日目は終日自転車走行の予定であったが、自転車トラブル、天候により各日とも輪行を行い、振返ってみれば毎日何らかの形で輪行を行う結果となった。

一日目 3/20(金)



予定どおり台北、松山空港に到着。空港から MRT(新交通システム) を乗り継ぎ台北駅に到着した。地下駅となっており大きな駅舎の中は、広い空間が広がっていた。日本で予約しておいた特急券と共に、乗り継ぐ普通列車の乗車券を併せて購入した。



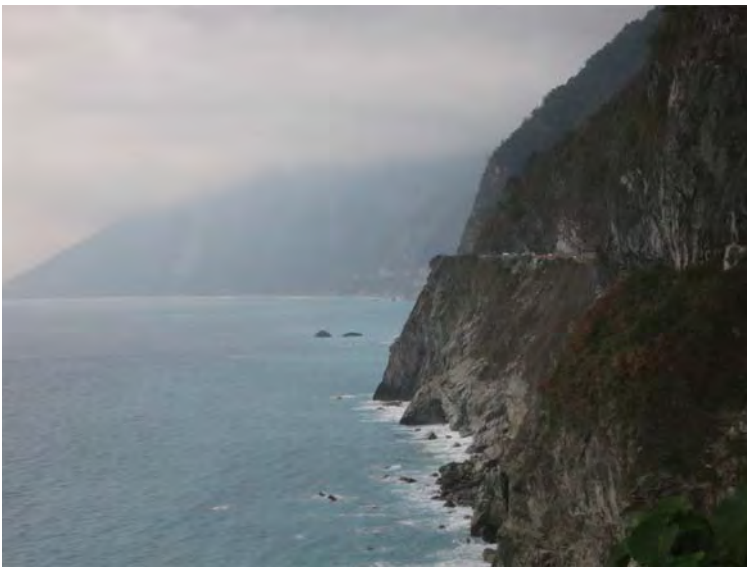
乗車番線を確認すると「4 A」とのこと。日本の場合二面四線の場合、1～4番線となるが、台湾では1 A, 1 Bと2 A, 2 Bであった。納得。空港到着 10:15 から鉄道乗車 13:10 まで余裕を持ちすぎかなと考えていたが、結果としては切符購入まで二時間経過しており残り一時間、ちょうどよかった。発車までの間、昼食を購入したり駅内外を散策することができた。



宜蘭駅で特急から快速列車に乗り換え

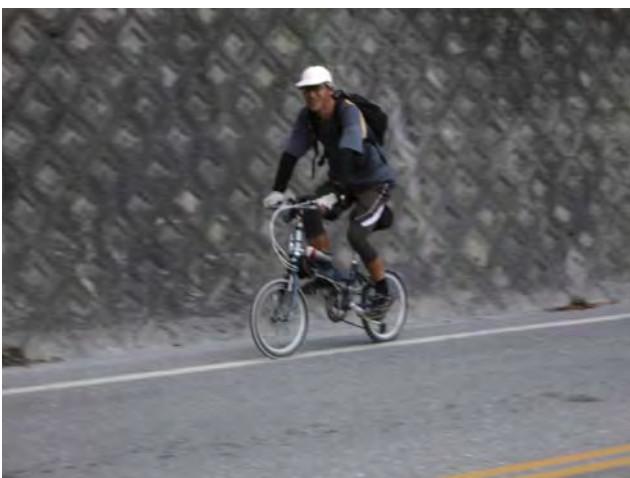


15:50 和平駅より走行開始



蘇花公路 清水断崖

台湾の鉄道は、現在は台湾を一周しているが、この区間を鉄道が運行を開始したのは、1980年と比較的新しい。それまでは、花蓮と台東の間が独立して運行されていたとのことである。現在は道路も鉄道と同様、多くの部分をトンネルで貫いているが、それにしても、よくぞこんな道路をつくり通行していたものである。現在、旧道は片りんしか見ることができないが、交通上の難所であることには変わりない。



台湾のサイクリスト
横浜のM川さんにあまりに似ていたので
声をかけてしまいました。その後花蓮まで
抜きつ抜かれつ。



蘇花公路の旧道(廃道)



- 自転車
- 列車移動



一泊目でお世話になった民宿。シャッター前で夜はゆんたく。

二日目 3/21(土)



宿を 7:00 に出発。まずは、宿の近くにある旧花蓮駅。駅舎や何両かの車両が展示してある。



24 時間営業の人気店「公正包子」



昨晚も立ち寄った「公正包子」で朝食。小籠包 3 個とスープで 40 元也。



結構幅の広い花蓮溪の河口



途中バナナ畑が広がっている。
手の届くところにいっぱい。



売店でバナナを二本購入。おいしかった。



芭崎展望台からの眺め



11:50 豊浜の街に到着。ちょうどコンビニがありました。ここで昼食休憩。





豊浜出発後、睡魔に襲われ、
30分昼寝。今日は晴天で気持ち良い。



ときどきサイクリストとすれ違う。
この方とは翌日再会した。

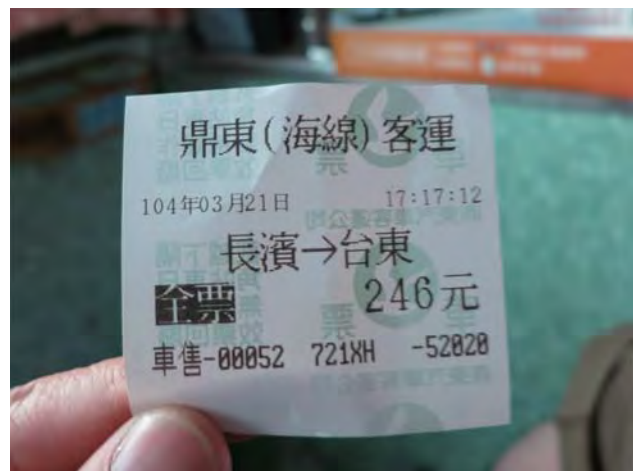


14:35 道の向こうになにやらバスが何台も止まっている。北回歸線のモニュメントであった。近くでは椰子のジュースが大繁盛。



北回帰線を越えれば熱帯に入る。宿泊予定の成功までは大きなアップダウンは無いはずである。のんびり行こう・・・と考えていたらおかしい。左クランクにガタを感じる。見てみたらクランクを固定するボルトが脱落している。万事休すである。去年暮れにBBを交換した際に左クランクにクラックを発見したため遠慮して締め

付けを行った。そのため今回も気にはしていたのだが、今朝若干のガタを感じた際、クランクではなく、クイック式のペダル取り付け部の遊びであると判断したため油断していた。もう明らかにおかしいと感じた時には、ボルトが脱落した後であった。結局、長浜の街まで落し物をしないよう慎重に走り、そこから台東までバス輸送することとした。



自転車は車体下部の収納スペースに入れてもらいフロントバックのみで最前列に陣取る。小さなバス停でのバスの止め方などを観察することができた。バスを降りるときには皆お礼を言って降りていく。



ホテルの駐車スペースになんとか落ち着いた。

19:10 旧台東駅前到着。携帯で近くのホテルを予約し、移動。荷物を部屋に置いて台東到着の際、見かけた自転車店まで輪行袋を担いでいく。無事 GIANT の看板を掲げた自転車店で、クランクのボルトを購入、締め付けてもらった。これで一安心。明日から予定通りに旅ができると、その時は思いました。



三日目 3/22(日)



本日は宜蘭に宿泊する。本来は、成功から台東まで走り、台東から宜蘭へ直接移動するはずであったが、昨日のトラブルで台東まで移動済みのため宜蘭の手前で下車し走ることとした。

まずは台東市内散策。
市内は活気がある。上空を時々戦闘機が爆音を轟かせ飛行する。



台東駅
台東市街

- 自転車
- 列車移動



宿を出発してまず向かったのは、旧台東駅。花蓮と台東をナローゲージの線路で結んでいた時の終着駅である。今から35年前、宮脇俊三さんが乗ったであろう車両や、降り立ったであろう地に立つことができた。広い構内や可愛い車両が当時の賑わいを物語っている。

ここからは廃線になった現在の台東駅までのルートをたどってみる。旧線は遊歩道

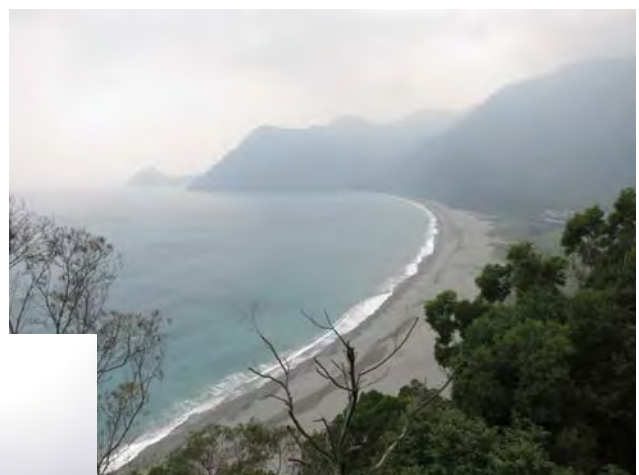
として整備され、地元の人たちの憩いのスペースとなっている。大きな通りを横断するときを除いては、レールや途中の駅舎など保存してあった。

台東駅で蘇澳新駅までの切符を購入。花蓮までは席はあったが、花蓮からは満員とのこと。「無座」となりました。





切符は蘇澳新駅まで購入しましたが、自転車も復活したことだし少し手前で降りようか・・・との気持ちが湧いてきました。検討の結果、意を決して手前の南澳駅で下車した。直前に車内で検札した車掌さんが心配そうにこちらを見ていました。一駅手前で下車したことが良かったか、否か、降りてからも頭の中を巡ってました。こじんまりした駅の入口で自転車を組み立て出発。天気はなんとか持ちそうである。走り出してほどなく休憩中のサイクリストを挨拶をして追い越し、こちらが休んでいたらその青年がやってきた。なんでも台湾一周中で明後日には台北の自宅へゴールとのこと。あとで写真を確認したら昨日北回歸線の手前ですれ違った方でした。



思った以上に変化に富んでいる蘇花公路北部の海岸線。交通量は比較的多く、この付近の走行は島を反時計回りの方向が望ましいと感じた。



蘇澳駅

豪快なダウンヒルを下り、16:30 蘇澳の街が見えてきました。

予定通り列車に乗っていれば 10 分ほどで通り過ぎるところを 2 時間以上かけて走ったことになる。天気はいまいちだったが、景色や出会いを考えると降りて良かった。蘇澳駅に立ち寄り、街の中を進んでいるとパン屋さん発見。おいしそうなので思わず立ち寄る。

ここから今日の宿、宜蘭までは平坦な道となる。途中、街をいくつか通り順調に到着の予定であったが、またクランクが緩んできた。山中でなくて良かった。



蘇澳駅に比べ、立派で大きな
蘇澳新駅

四日目 3/23(月)



宿泊したホテルの前で



今日は雨である。自転車は再び走行が困難な状態。気分も天気と同様である。今日の行動の目標ステップは、①即台北へ輪行で移動。②草嶺トンネルを経て福隆まで移動。③十分まで行き周辺を散策。④トンネルを経て台北まで走行。以上の選択枝のどれかになるはずである。

急ぐことはないので朝食後、ホテルで教えてもらった自転車店へ向かう。台東とは若干雰囲気はことなるが、負けずに賑やかである。商店街の一角に自転車店を発見し、早速緩んだクランクのボルトを締め付けてもらう。併せて同じサイズ(8mm)のキーレンチを購入しようと思わしたがなさそうであった。とりあえず走れる状態にはなった。





ホテルを出発して海岸線へ向かい 30 分ほど走ったところで左クランクのガタつきを感じ始めた。今日は①か！と脳裏をかすめた。愛用してきたクランクの最後が近いことを感じた。ダメ元で 6mm のキーレンチにマイナスドライバーを添えて回すと締め付けはできないまでも、遊びを無くすることはできそうである。その後その操作を 2 ～ 30 分ごとに繰り返しながら進むことになった。何度もこんなことをやっているると終いにガタつきの遊びが無くなることに快感を覚えてしまった。



- 自転車
- 列車移動



途中のコンビニで昼食をとりながら、12時過ぎに草嶺トンネル到着。もともと鉄道のトンネルでしたが、隣に新草嶺トンネルが完成したため、現在はサイクリングコースとして利用されている。約600mの間、自転車とは会いませんでしたが、徒歩の方と2～30人とすれ違いました。



トンネルを抜けたら福隆の駅はすぐである。
トンネル出口が近づくと何やら賑やかな音がある。雨音であった。山ひとつ越えたら本降りになっていたのである。この時点で本日の走行は福隆駅までとすることとした。



13:40 福隆駅到着。駅の周辺には名物の弁当屋さんが並んでいる。雨具を脱ぎ、自転車をきれいにして輪行バッグに収める。14:17 発の普通列車に乗車して台北へ向かう。最初は閑散としていた車内も台北に近づくにつれて込み合ってきた。



台北駅到着後、地下鉄 (MRT) に乗り換える。乗り換えの途中はどこをどう向かっているのか方向感覚を失うが、案内表示がしっかりしているため迷うことはなかった。台北の地下鉄は土日に限り自転車のまま乗車可能で、案内も分かりやすい。





地下鉄 (MRT) の車内に JR の広告がありました。一車両 (列車?) 全体でした。



士林近くの自転車屋「ギアステーション」

本日の宿「サンルート台北」に到着後、士林駅近くの自転車屋「ギアステーション」へ手ぶらで向かった。8mmのキーレンチを購入するためである。事前にチェックしていたこの店のご主人は日本人で目的の工具を購入できたほか、いろいろな話を伺うことができた。



せっかく士林近くまできたのだから、夜市にも立ち寄った。ずいぶん賑やかなエリアで食べ物関係は地下にフードコートとしてまとまっていた。一步足を踏み入ると、あまりの熱気と混ざり合った臭いに圧倒された。



五日目 3/24(火)



自転車整備、物干し場と化したホテル室内



朝、外から聞こえる騒音で目が覚めた。見てみると、交差点で停車しているスクーターが青信号で一斉にスタートするときの音であった。本日は、午前中故宮博物院を見学し、昼に一旦ホテルに戻り、午後は市内を回って空港がゴールとなる。荷物をホテルに預け出発。まずは、基隆河畔の公園へ向かった。閑散としていたが、週末はきっと賑やかな事と思う。





故宮博物院



行天宮

故宮博物院は台北の観光で必ず訪れる有名な場所である。北京の故宮博物院に比べると、建物自体は非常にコンパクトですが、展示品は素晴らしいと感じました。(本当の価値はわかりませんが)あまりの多さに驚きを通り越しました。(展示は収蔵品のごく一部とのこと)グーグルでも展示物を見ることができたので訪れようか迷いましたが、来てよかったと感じた次第です。

ホテルへの戻りはショートカットコースとし、博物院近くや空港下のトンネルを車の流れに合わせてガンガン走った。もうクランクの心配はいらない。信心深い人たちでにぎわっている行天宮の前を通り、ホテルに到着。



昼食は前日から気になっていたセルフサービスの食堂に入った。好みの品を選択できるし、安い。そして旨かった。昨日もここにすれば良かった。





中正紀念堂

ホテルで預けてあった荷物を受け取り、最後の目的地「SENSE30」という自転車店へ向かう。途中、台北駅、総統府や中正紀念堂などを経由し、101ビルを目指す。途中雨がぱらついてきたが、そのまま進む。歩道の段差が滑らかになっていて衝撃が無い。日本より自転車にやさしい街づくりだなと感じた。



上部が霞む台北 101

「SENSE30」は、101ビルからほど近い路地にありました。こじんまりとした店構えながら若いスタッフの方たちが熱く接客している姿が印象的でした。新旧タイプの自転車と共に、用品やウェアなど店名のとおりセンスが売りのような印象を受けました。ロードタイプの自転車が全盛の中で、ツーリング用の自転車を扱う店が台湾に存在していることを、とても嬉しく感じました。



SENSE30



松山空港で最後の輸行。飛行機の中には、ちょっと厳重にパッキングするのとサドルバッグも併せて梱包。



自転車トラブル

左クランクは本文中で記載したとおりである。まったくお恥ずかしい限りである。その他のトラブルとしては、マッドガードのダルマねじの緩みが2回。1回はナットが脱落し、スペアパーツで補修、もう1回は緩んだ段階で発見し、増し締めして事なきを得た。

台湾サイクリングの感想

日本と同様、コースを選べば良いルート、エリアが見つかること確信した。台湾でサイクリングを楽しんでいる人は予想していた通り多く見られた。和平スタート直後、清水断崖を通過してきたと思われる集団、台東では輸行で到着しこれから走行開始という一団など、見かけたりすれ違ったりした。そのほとんど人と挨拶を交わした。日本から渡った直後は車両右側通行に十分注意する必要がある。台湾でのサイクリングは決してハードルは高くないと感じた。今後も機会を見つけて、今度は万全な準備をして計画したいと考えている。

最後に

今回思い立って台湾でのサイクリングを決行した。不安はあったが、久しぶりに準備段階でのわくわく感を味わうことができた。国際化、グローバル化とは言っても私自身は井の中の蛙。大いに刺激を受けた4泊5日であった。沖縄よりちょっと先くらいの距離なのに、そこは異文化でした。その環境の中で旅をするということは勇気が必要でしたが、新たな発見、気づきが得られました。

台湾でお世話になった皆様、台湾行を後押ししてくれた仲間の皆様、快く送り出してくれた家族に感謝します。ありがとうございました。謝謝。



参考書籍

- 地球の歩き方「台湾」 ダイヤモンド社
- 台湾鉄路千公里 宮脇俊三 角川文庫
- サラリーマンのための地球の走り方
のぐちやすお 榎出版社
- 台湾鉄道の旅完璧ガイド イカロス出版